

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	1	大学等名	徳島大学
テーマ	テーマⅠ アクティブ・ラーニング		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、初年次教育科目「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」(SIH：Strike while the Iron is Hot)を軸とし、「SIH 道場振り返りシンポジウム」を毎年開催し、そこでの議論に加え、アンケート結果等の分析を行い、翌年の「SIH 道場」の授業設計に反映させるなど授業の改善枠組みの着実な運営、学生の能動的な学修を全学レベルで促進したことは十分評価できる。また、「SIH 道場」は、担当した教員のアクティブ・ラーニングに関する知識・技能の修得や意識改革につながるなど、教員の教育力向上に向けた実践的なFDの役割も果たしており、教育改革の原動力となったと評価できる。アクティブ・ラーニング要素の専門科目授業全般へどの程度浸透し、また学士課程での人材育成につながることであったのかについては、更なる検証が期待される。

事業の具体的な取組の進捗状況については、各年度の計画に基づき、着実に事業が実施されていることに加え、中間評価及びフォローアップにおいて指摘された課題に対して、いずれも必要な取組がなされたことは評価できる。一方で、必須指標のうち「学生1人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間」が補助期間中に一度も目標値を達成できなかったことについては、大学側の分析では「学生1人当たりアクティブ・ラーニング科目受講数」の影響があるとしているが、科目の内容や授業形態等も影響していると考えられるところ、指標間の関係も含め様々な角度から要因の分析を進める必要がある。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、事業統括と実施体制並びに取組の適切な自己・外部評価実施体制が整備されており、特に、「教育について考え提案する学生・教職員専門委員会」を設置し、学生が正式な委員として教育に係る具体的な提案等ができる体制を整えたことは評価できる。また、補助期間終了後の学内予算の確保及び組織と専門人材の配置がなされ、かつ「SIH 道場」が学部単位のマネジメントの下で実施され、「大学IR コンソーシアム調査」により授業評価・改善が行われる仕組みが構築されていることから、事業の発展的な継続が期待される。

事業成果の普及については、「SIH 道場」が、総合大学における初年次導入科目(必修)として、学生の動機付け、教員の意識醸成及び効果的なFDの役割を果たすなど、導入教育の成功モデルとなったことは高く評価できる。また、全国の大学が交流できるソーシャル・ネットワーキング・サービスサイトの開設、「AP テーマⅠ 選定校協議会」や共催シンポジウムの開催など、テーマ別幹事校としての情報発信と共有の取組は十分評価できる。今後、成果の総合的な分析を進め、全国の大学等で共有されるよう取り組むことが一層望まれる。